

愛知の土地改良

第188号

平成29年1月1日



朝陽に輝らされて(犬山市)

第15回あいちの農業・農村フォトコンテスト
水土里のフォト大賞作品

□ 新年を迎えて 会長 中野 治美	2
□ 新春を迎えて 愛知県知事 大村 秀章	3
□ 本年も「闘う土地改良」で全力 参議院議員 進藤 金日子	4
□ ご挨拶 愛知県農林水産部農林基盤局長 山本 信介	5
□ 第1回理事会開催	6
□ 農業農村整備の集い	6
□ 平成29年度 農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施	7
□ 農業用排水機器官移管期成同盟会要請活動を実施	10
□ 第39回全国土地改良大会 石川大会	11
□ 農地・水・環境のつどい 開催	12
□ 土地改良区体制強化事業情報	13
□ 研修会	15
□ 第15回あいちの農業・農村フォトコンテスト	18
□ お知らせ	19
□ 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016	20
□ 明治用水が「世界かんがい施設遺産」に登録	21
□ 迎春	22

新年を迎えて



愛知県土地改良事業団体連合会
会長 中野 治美

年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、新年を迎え益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は、本会の運営及び農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り深く感謝いたします。

さて、昨年4月に発生した熊本地震は、14日、16日の2回の震度7級の地震と、その後も繰り返し発生した誘発地震により、各地に甚大な被害をもたらしました。また、8月には北海道に上陸した3つの台風により、北海道、東北地方に甚大な被害をもたらした等、全国で災害により被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

愛知県においては、一昨年世界かんがい施設遺産に登録された「入鹿池」に続き、「明治用水」が、昨年11月にタイで開催された国際かんがい排水委員会の国際執行理事会に於いて、世界かんがい施設遺産に登録されました。永年、先人たちが築き上げてきた施設が、今もなお愛知県を代表する歴史ある農業用かんがい施設として守られ、後世に引き継がれようとしている努力の証であり、心よりお祝い申し上げます。

農業農村整備に関しては、昨年11月に政府の農林水産業・地域の活力創造本部にて改定された「農業競争力強化プログラム」の中に謳われた「真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直し」では、ほ場整備事業の農地中間管理機構と連携する事業の円滑な実施に伴う新たな制度の創設や、地元の負担軽減措置、農村地域防災減災事業等のため池等の防災減災事業及び除塩事業の創設、また、土地改良区の在り方の事業参加資格者の検討、及び土地改良区の事務局体

制強化と土地改良施設の高度利用による財政基盤の強化促進などが、引き続き検討されることになっております。

本会においては、9月に実施した会員各位による農業農村整備事業に対する意見、要望についての取りまとめを行い、11月には、その要望内容を反映した形で農業農村整備事業に関する重点要請活動を農林水産省農村振興局、東海農政局、関係国会議員、愛知県知事等に対して精力的に実施してまいりました。特に、愛知県知事等県内関係機関には、本県が我が国最大のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を鑑み、排水機維持管理事業の予算確保、単独土地改良事業の制度拡充等を追加項目として要請活動を実施したところです。

平成22年度に激減した予算は、こうした活動が全国でも展開されたことにより、平成29年度農業農村整備事業関係予算では、当初予算で対前年度比105.2%の4,020億円が計上されました。さらに、平成28年度補正予算の1,752億円とを合わせて5,772億円になり、平成21年度の当初予算額と肩を並べる額となりました。

しかし、我々は各種土地改良事業の円滑な推進のためには、この額が当初予算で確保することを目指し、今後も更なる努力と精進を重ねていく必要があります。水土里ネット愛知は、これまで培ってきた経験と技術を活用し、地域が目指す施策を今後も国・愛知県と連携して、効率的で効果的な農業農村整備事業を展開してまいります。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げますとともに、土地改良事業の限りなき発展と皆様の益々のご繁栄を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて



愛知県知事
大村 秀章

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様方とりまして、素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、リニア中央新幹線の愛知県内での本格着工、MRJの米国での飛行試験開始など、日本の未来を創るプロジェクトがまたひとつ大きく前進しました。

また、2026年アジア競技大会の開催決定、有料道路コンセッション、公道での自動走行の実証実験など、新たな取組に果敢に挑戦し、着実に成果を挙げた1年となりました。

今年も、こうした取組を発展させるとともに、新たな取組に積極的にチャレンジし、愛知の可能性を大きく広げる1年としてまいります。

2027年度のリニア開業に向け、鉄道・道路網の強化など中京大都市圏づくりを着実に進めながら、次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援、農林水産業の強化、国際展示場の整備などにより、愛知の産業力を一層強化してまいります。

特に、農林水産業においては、2020年度を目標年度とする「食と緑の基本計画2020」に基づき、本県の強みや特長を生かした12の重点プロジェクトを軸に、競争力の高い農林水産業などの実現を目指して、効果的な施策の展開を図ってまいります。

中でも近い将来、発生が危惧される南海トラフ

地震などの自然災害に備える農業用排水機場の計画的な更新や、農業用ため池の耐震対策などについては、「農山漁村地域の防災・減災対策プロジェクト」に位置付け、重点的に取り組むとともに、農業の競争力を高めるための高収益作物を中心とした営農への転換や、農地の集積・集約などによる水田農業の強化などについても一層推進することとしております。

さらに、農業用水を利用した小水力発電につきましては、昨年、県内で10ヶ所目となる羽布ダム小水力発電所が稼働を開始しました。今後とも、農業経営の安定や地域の活性化に寄与できるよう、さらなる導入促進に努めてまいります。

また、“Heart” of JAPAN ~Technology & Traditionをキャッチワードに、武将観光やユネスコ無形文化遺産に登録された日本一の山車からくりなど愛知の魅力の創造・発信に取り組むとともに、積極的に国際交流を進めてまいります。

そして、認知症対策の拠点づくりとなる「オレンジタウン構想」にも着手するほか、医療・福祉、教育・人づくり、防災、環境、東三河地域の振興にもしっかりと取り組み、愛知の総合力に更なる厚みを増してまいります。

今年も、「日本一元気な愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

平成29年元旦

本年も「闘う」で全力



参議院議員
進藤 金日子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、皆様のご支援をいただき、現在、参議院議員として国政に参画いたしております。土地改良に関する方々が心を一つにしていただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

昨年は、本当に災害の多い年でした。4月の熊本地震被害、8月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動等に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年8月に閣議決定された土地改良長期計画実動の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年11月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と、新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。特に、「農業競争力強化プログラム」は、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の

努力のみでは解決できない構造的な問題を解決するため、13項目にわたる課題に対する取組の道筋を示し、その実行により農業者の所得向上を図ろうとするものです。土地改良については、土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設の他、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（15人以上）の廃止、突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは、今後、土地改良法を改正した上で順次実行されることになります。

次に予算です。今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成29年度予算政府案においても着実に予算が回復してまいりました。補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待ちをしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立って全力を尽くし、皆様と一緒にになって諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟です。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

ご
挨
拶



愛知県農林水産部農林基盤局長
山本 信介



あけましておめでとうございます。

愛知県土地改良事業団体連合会におかれましては、中野会長様を中心に、県政の発展に多大な御支援をいただくとともに、本県の農業農村整備事業の推進に格別な御尽力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、国は昨年6月に閣議決定した経済財政運営の指針となる「骨太方針」に、一昨年に続き土地改良事業の一層推進を位置付けました。続く8月には、「土地改良長期計画」を閣議決定し、個性と活力ある豊かな農業・農村の実現を目指す中で、産業政策としての「豊かで競争力のある農業」、地域政策としての「美しく活力ある農村」、両者を下支えする「強くてしなやかな農業・農村」を掲げ、各種施策を計画的に推進していくこととしています。こうした中で農業農村整備関係予算は、平成28年度第2次補正で1,752億円が確保され、平成29年度当初予算については、前年度を上回る4,020億円が見込まれており、補正予算と合わせた平成29年度執行ベースの額は、大幅削減前の平成21年度の水準にまで回復することとなります。しかしながら、事業の計画的な実施には安定的な予算が不可欠でありますので、今後とも当初予算の確保に向け、貴連合会と手を携え、粘り強く取り組んでまいりたいと考えております。

本県では食と緑を支える豊かな「あいち」を目指して、平成28年度から5年間を計画期間とする「食と緑の基本計画2020」を昨年3月に策定したところです。本県の喫緊の課題として、近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震などの大規模災害への備えを一層強化していく必要がある中、この基本計画を推進する重点プロジェクトの1つに、農業用ため池や農業用排水機場等の農業水利施設、海岸保全施設の整備や耐震化等を位置づけることで、防災・減災機能の一層向上を図り、県民が安全で安心できる豊かな暮らしを実現することとしております。

さらに、貴連合会と県が積極的に推進している農業用水を利用した小水力発電につきましては、昨年、新たに稻橋地区と羽布ダム地区の2地区で稼働を開始しました。中でも羽布ダム発電所は、農業用水を利用した小水力発電としては県内最大級の規模であり、発電による売電収益を農業水利施設の維持管理費の軽減に充てることで、農業経営の安定や地域の活性化に寄与できるものと期待しております。

また、昨年11月には明治用水が世界かんがい施設遺産に登録されました。本県では、入鹿池に続き2件目の登録となり、大変喜ばしく、また誇らしく思います。県内には明治用水と同様に、地域の発展に大きく寄与している農業水利施設が他にも多くあり、こうした地域の貴重な財産を未来へ継承するためには、施設の維持・保全管理はもとより、その歴史的価値や社会的役割を県民の皆さんに一層理解していただくことが重要であると考えております。このための取組の一環として、本県では貴連合会と連携して、あいちの農業用水展や鵜戸川釣り大会(愛西市)、羽布ダム水源地域交流フェスタ(豊田市)、入鹿池「世界かんがい施設遺産」登録周年祭(犬山市)といった地域イベントを開催し、多くの方から好評を頂いたところです。今後も、様々な機会を捉えて、こうした情報を積極的に発信することで、県民の皆さんに理解を一層深めていただけるよう努めてまいります。

貴連合会におかれましては、今後とも本県の農業農村整備の推進に一層の御尽力をいただくとともに、これまで培われた知識や技術力を駆使して、多面的機能を持つ農地や農業用水等の保全管理に御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますの御発展と会員各位の御健勝と御多幸をお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

第1回理事会開催

8月29日、第1回理事会を、愛知県土地改良会館7階大会議室において開催した。理事会は初めに中野治美会長の挨拶、続いて、参与としてご臨席の県幹部の方々を代表し、山本信介愛知県農林基盤局長より挨拶をいただき、議事に入った。提出した下記議案は、いずれも原案どおり承認、可決された。



議長を務める中野会長

記

提出議案

第1号議案 平成27年度事業報告並びに一般会計収支決算及び財産目録の承認について
※関連説明 短期(5ヶ年)事業計画について

第2号議案 土地改良区体制強化事業強化委員会設置運営規程の一部変更の承認について

第3号議案 農業用排水機場及び用水機場の自家用工作物の保安管理業務手数料の変更に関する
覚書締結の承認について

その他の事項

- (1) 第39回全国土地改良大会－石川大会－について
- (2) 農業農村整備の集い並びに要請活動について
- (3) 農業農村整備事業に関する調査について

農業農村整備の集い

— 農を守り、地方を創る予算の確保に向けて —

11月28日、東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで「農業農村整備の集い」が開催された。

この集いは、全国の土地改良関係者約1,100名が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農

業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催されたもので、本県からは、中野治美会長を始め、本会会員、愛知県より27名が参加した。

冒頭、二階俊博全国水土里ネット会長は、同事



二階会長挨拶



山本農林水産大臣挨拶

業の予算を平成21年度水準に戻すために「当初予算で予算枠を確保することが重要だ」と訴え、「この集いの会場が満杯となった姿を財政当局は見ている。今年は本気だ」と力強く挨拶された。

続いて、山本有二農林水産大臣は、「TPP対策としても土地改良事業を押し進め、農家の不安をなくし、安心して農業生産に取り組めるようにする」と述べられた。

その後、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員から、「闘う土地改良が旗印だが、まだまだ闘いは続いている。予算は徐々に回復しているが、所得増加や地域を守るなどの事業効果をはっきりしていく姿を訴えていかなければならぬ。土地改良制度の見直しもある。中山間地の農業を元気にしていく委員会というものもあり、熱い議論が交わされている。予算確保、政策の樹立のために、ご参集の多くの国会議員の方々と土地改良の皆さんと一体になり、団結して



進藤参議院議員挨拶

21世紀の農業農村をつくるという気概をもってがんばっていく決意である」という内容が述べられた。

その後、土地改良区の産地振興に関する事例発表もされた。

最後に、国に対して、予算確保のための要請の提案・採択がなされた。

平成29年度 農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施

11月17日、中野治美会長、青木章雄専務理事より平成29年度農業農村整備事業に関する20項目の重点要請を、田辺義貴東海農政局長を始め局幹部職員に対し実施した。



東海農政局幹部への要請

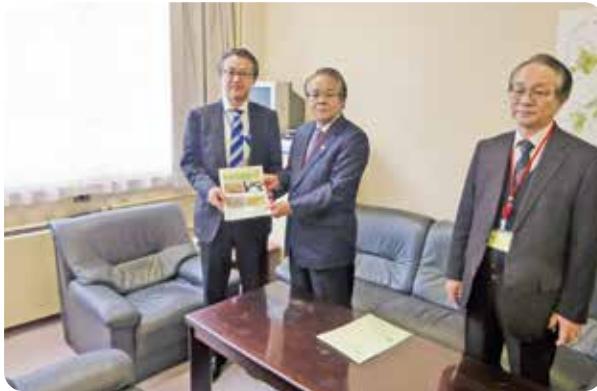


田辺東海農政局長に要請書を手交

8ページへ続く



11月28日には午前中、農林水産省農村振興局長を始め幹部職員に対して要請活動を実施し、午後からは進藤金日子参議院議員及び愛知県選出の衆・参国会議員に平成29年度農業農村整備事業に関する20項目の重点要請を実施した。



農林水産省 奥田整備部長に要請書を手交



進藤参議院議員に要請書を手交



藤川参議院議員に要請書を手交

要請書

愛知県の農業農村整備事業の推進につきましては、日頃から格別のご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、今般の平成28年度補正においては、昨年度990億円より大幅な増額の1,752億円、平成29年度の概算要求におきましても、農業競争力強化のための農地整備や、新たな農業水利システムの構築、国土強靭化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策、ため池の管理体制の強化等を始めとした農業農村整備について、前年度に対し764億円の増額を要求していただき、補正を含めた概算要求は、平成21年度予算を上回る対応に重ねてお礼を申し上げます。

しかしながら、地域ニーズに応じた事業を展開するためには、農業農村整備事業の当初予算の確保が不可欠であります。

本県は、古くから木曽川・矢作川・豊川の三大水系を中心として、先人の努力により数多くの農業用水路が開削され、戦後は愛知用水を始め、各水系で大規模水利事業を展開してきたことにより、県農業生産額で全国3番手グループ、中部地方最大の農業県であり、それを支えるためにも、計画的かつ着実に農業生産基盤の整備を進めていかなければなりま

せん。

これら先人が築き守ってこられた施設を、更に機能的かつ高度に活用し、維持・更新をしていくことが私たちの責務でありますので、国営事業を着実に推進していただくと共に、これまで補完的な改築に留まってきた大規模水利施設や、水資源開発施設等につきましても、適切な時期に次代を見据えた更新や機能保全対策を実施していく必要があります。

一方で、本県は我が国最大規模のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を抱えております。南海トラフで発生する大規模地震により、海岸堤防は沈下・崩壊し、津波到達前の浸水や津波による堤防流出による甚大な被害が想定されています。また、近年ゲリラ豪雨等も多発しております。そのため、防災・減災に資する農業用施設の耐震化・更新整備が喫緊の課題であります。

今回、こうした課題や地域のニーズに応えるべく、3つのテーマで合わせて23項目の重点要請を行いたいと思います。愛知県土地改良事業団体連合会は、今後も国・愛知県と連携して効率的・効果的な農業農村整備事業を展開していく所存でありますので、格別のご高配をお願いいたします。

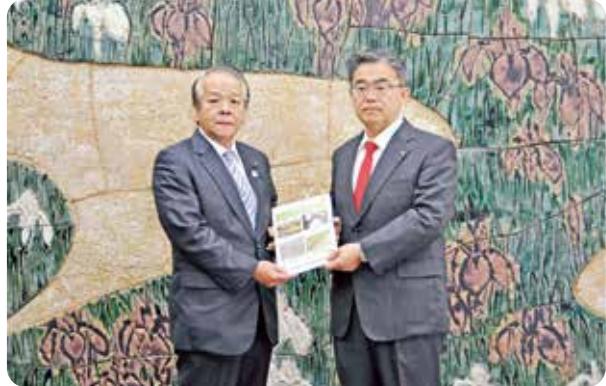
11月30日には、平成29年度農業農村整備事業に関する23項目の重点要請を、自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟に対し実施した。



自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟への要請

その後、同内容の要請について大村秀章愛知県知事を始め県執行部に対し実施した。

要請書並びに重点要請項目の内容は下記のとおり。



大村知事に農業農村整備事業の要請書を手交

重点要請23項目

I 地域ニーズに応じた攻めの農業農村整備事業の展開について

- 1 農業農村整備事業の計画的な実施について
- 2 農村地域防災減災事業の国庫補助率の嵩上げについて
- 3 農地防災事業に係る土地改良法手続きの簡素化について
- 4 海岸保全施設の耐震対策を行う補助制度の拡充について
- 5 県営耐震対策一体型かんがい排水事業の創設について
- 6 県営事業の負担割合の見通し団体営・単県事業の地元負担軽減について
- 7 単独土地改良事業の制度拡充について

II 国土強靭化に資する農業農村防災対策と力強い農業を支える農業生産基盤の整備について

- 1 農業の競争力強化に向けた農業基盤整備事業の促進について
- 2 農村地域防災減災事業の促進について
- 3 農業用用排水路の老朽化及び長寿命化対策について
- 4 特定農業用管水路等特別対策事業の促進について
- 5 農山漁村地域整備交付金の促進について
- 6 多面的機能支払交付金による地域の協働活動の着実な促進について
- 7 農業水利施設の適切な維持管理に対する支援について
- 8 排水機場の適切な維持管理に対する支援について

III 暮らしを支える大規模水利施設の耐震化及び更新整備について

- 1 国営総合農地防災事業 新濃尾地区の推進について
- 2 国営総合農地防災事業 矢作川総合第二地区の推進について
- 3 国営施設機能保全事業 尾張西部地区の推進について
- 4 地域整備方向検討調査 矢作川沿岸地域の推進について
- 5 水資源機構営 豊川用水二期事業の推進について
- 6 愛知用水施設における耐震対策の推進について
- 7 木曽川用水施設における老朽化対策の推進について
- 8 水資源機構施設における耐震診断の推進について

※農林水産省には I の6、7と II の8を除く
20項目を要請

農業用排水機県営移管期成同盟会要請活動を実施

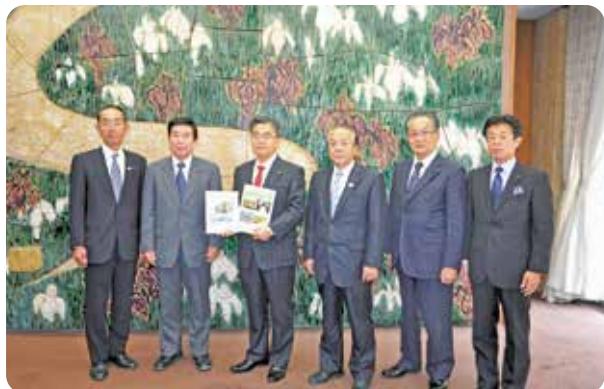
11月30日、農業用排水機県営移管期成同盟会においても、浜田一徳会長が、大村秀章愛知県知事を始め県執行部並びに自由民主党愛知県議員

団土地改良議員連盟に対し排水機維持管理事業に関する要請を実施した。

要請書は次のとおり。



大村知事に要請書を手交



大村知事を囲んで

要請書

排水機維持管理事業に関する要請書

排水機維持管理事業の推進につきましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

農業用排水機は、農地のみならず住宅地や公共施設用地など地域全体の排水を担っており、その公共性の高さから農業用排水機県営移管期成同盟会は農業用排水機の県管理を要望してまいりました。

これに対し愛知県は「直ちの全面的県営管理は不可能」とし、代替措置として排水機維持管理事業を創設されましたが、このことは農業用排水機の公益性を踏まえ、私どもが公的な役割を果たしていくことの結果として、その費用を補助して頂いているところあります。

しかしながら、排水機維持管理事業の県補

助額につきましては、本来交付されるべき補助額に遠く及ばない状況が続いておりまして、この状況が更に續けば、排水機の適正な維持管理が困難となり、ひいては地域の防災対策の弱体化を招き、地域住民の生命と財産を守ることも極めて困難になると懸念しております。

また、電気主任技術者にかかる経費は、一般財団法人中部電気保安協会との保安管理業務にかかる契約が農事用から一般契約に見直され、さらに負担が増す状況です。

つきましては、何卒、実情をおくみ取りいただき、排水機維持管理事業の予算確保に特段のお取り計らいをよろしくお願い申し上げます。

—水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ—

- 第39回全国土地改良大会石川大会が、10月25日、石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターにおいて、水土里ネット石川、全国水土里ネットの主催及び農林水産省、石川県等の後援により、大会テーマ「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」の下、全国の土地改良関係者約4,300名が参集し、盛大に開催された。
- 大会は、オープニングセレモニーとして、石川県の紹介映像や民謡、加賀鳶が披露された。
- 次に開会宣言、国歌斉唱、その後、西村徹水土里ネット石川会長による「先人達から受け継いできた農地等を次世代に確実に引き継ぐため、農業農村の大切さについて国民に理解を深める活動を継続し、地域と資源を守り安心・安心な農村社会を築き活力ある豊かな農業・農村を目指すことを、今回集まった関係者と一緒にとなって、全国に発信していきたい」との開催県挨拶がされた。引き続き、二階俊博全国水土里ネット会長が「土地改良長期計画の中の3つの政策課題について、『闘う土地改良』を活動の基本に置きつつ、積極的に貢献していくことが重要である。そして、土地改良を通じて各地域の課題をいかに解決し、地域農業の振興にどのように貢献できるかについて考える絶好の機会とすることが、本大会の重要な意義である」と主催者挨拶を述べた。続いて谷本正憲石川県知事による歓迎のことば、磯崎陽輔農林水産副大臣、進藤金日子参議院議員による来賓祝辞の後、大会に参加された来賓の方々が紹介された。
- また、土地改良事業功績者表彰式が行われ、農林水産大臣表彰6名、農振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰46名の受賞者に表彰状と記念品が授与された。本県からは、全国土地改良事業団体連合会長表彰に、山本千之岡崎市東部土地改良区理事長が表彰の栄に浴された。
- 式典の後半には、室本隆司農林水産省農振興局次長、丸山利輔石川県立大学参与の基調講演が行われたほか、北陸の優良地区の事例紹介として、新潟県 柏崎土地改良区「柏崎刈羽地域の農業農村整備」、富山県 黒部川左岸土地改良区「土地改良区が取り組む小水力発電」、福井県 九頭竜川鳴鹿堰堤土地改良区連合「未来を潤す九頭竜川の清流」の取り組みが紹介された。
- そして大会宣言として、石川県立大生物資源環境学部の男女2名の学生さんにより「先人達が守り育ててきた農業農村の大切さについて理解を深める啓発活動を継続し、農村地域の豊富な資源である水、太陽光、バイオマス



二階全国水土里ネット会長主催者挨拶



全国水土里ネット会長表彰受賞の山本岡崎市東部(土)理事長

な意義である」と主催者挨拶を述べた。続いて谷本正憲石川県知事による歓迎のことば、磯崎陽輔農林水産副大臣、進藤金日子参議院議員による来賓祝辞の後、大会に参加された来賓の方々が紹介された。

また、土地改良事業功績者表彰式が行われ、農林水産大臣表彰6名、農振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰46名の受賞者に表彰状と記念品が授与された。本県からは、全国土地改良事業団体連合会長表彰に、山本千之岡崎市東部土地改良区理事長が表彰の栄に浴された。

式典の後半には、室本隆司農林水産省農振興局次長、丸山利輔石川県立大学参与の基調講演が行われたほか、北陸の優良地区の事例紹介として、新潟県 柏崎土地改良区「柏崎刈羽地域の農業農村整備」、富山県 黒部川左岸土地改良区「土地改良区が取り組む小水力発電」、福井県 九頭竜川鳴鹿堰堤土地改良区連合「未来を潤す九頭竜川の清流」の取り組みが紹介された。

そして大会宣言として、石川県立大生物資源環境学部の男女2名の学生さんにより「先人達が守り育ててきた農業農村の大切さについて理解を深める啓発活動を継続し、農村地域の豊富な資源である水、太陽光、バイオマス

- 等の再生可能エネルギーの積極的な利活用等
- により、自らが組織強化を図りつつ地域と資源を守り活力ある豊かな農業・農村を目指し、「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」をここ石川の地において高らかに宣言する」と力強い宣言がなされた。
- その後の大会旗引継ぎにより、大会旗は次回開催の静岡県に引き継がれ、大会は盛会裏



河北潟地区（太陽光発電）の説明を受ける本会役員

に幕を閉じた。

翌26日には、視察研修会が、4コースに分かれ実施された。本会は、金沢市 県営ほ場整備事業才田地区(大区画ほ場)、金沢市 農山漁村振興交付金河北潟地区(太陽光発電)、白山市 県営かんがい排水事業中島地区(七ヶ用水発電所)を視察した。



中島地区（七ヶ用水発電所）

農地・水・環境のつどい 開催

12月3日、安城市文化センター/マツバホールにおいて、「農地・水・環境のつどい」を愛知県と水土里ネット愛知の共催で開催した。つどいは愛知県における、地域共同による農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理と質的向上を図る取り組みの一層の普及を図り、県民の理解を促進するとともに、活動組織の意識向上を図るために、他の模範となる優れた活動に取り組む活動組織を表彰

することを目的に第1部の優良活動表彰会と第2部の講演会との2部構成により毎年度開催している。

今年度は、第1部の優良活動表彰会では、森岡仙太愛知県副知事の主催者挨拶の後、副知事によって3活動組織へ愛知県知事賞が授与され、中野治美会長より7組織へ愛知県土連会長賞の表彰が行われ、地域協議会より愛知県知事賞を受賞した3組

13ページへ続く



森岡副知事による主催者挨拶



会長賞を授与する中野会長

織の活動が紹介された。この後、小平均東海農政局次長、鈴木孝昌愛知県議会議長による来賓祝辞が述べられ第1部を終了した。

第2部の講演会では気象予報士の橋詰尚子氏による「地球温暖化と未来の農業」と題した講演が

行われ、最後に、中野会長の閉会挨拶で農地・水・環境のつどい全てのプログラムを終了した。

受賞組織は、次のとおり。

愛知県知事賞	
基礎活動部門	堤町環境保全会(豊田市)
農村環境保全活動部門	田峯環境保全会(設楽町)
創意工夫部門	津田地域環境保全会(豊橋市)

愛知県土地改良事業団体連合会長賞	
基礎活動部門	下小口地域資源保全会(大口町) 愛西市江西町農地・水保全会(愛西市) 堀割沃土の会(西尾市)
農村環境保全活動部門	おおくさ水土里の会(小牧市) 小垣江地区の緑と水を守る会(刈谷市)
創意工夫部門	白沢地域資源保全会(阿久比町) 川角地区環境保全会(東栄町)

土地改良区体制強化事業情報

II 換地事務「新規担当者並びに換地計画実務」研修会 II

8月24日、30日、31日、愛知県土地改良会館7階大会議室において、換地事務「新規担当者並びに換地計画実務」研修会を開催した。東海農政局土地改良管理課、名古屋法務局、愛知県農地計画

課及び農業振興課から講師を招き、愛知県、市町村、水土里ネット、コンサル等の換地技術者が出席した。

II 換地関係異議紛争処理実務研修会 II

全国水土里ネット主催による同研修会が、11月25日、岐阜県土地改良事業団体連合会会議室において開催され、農林水産省、東海農政局、岐阜県、三重県、愛知県、水土里ネットふくい、水土里

ネットみえ、水土里ネット愛知、水土里ネットふくい、全国水土里ネットから21名が出席し、事例について説明された後、活発な意見交換が行われた。

(敬称略)

(協議事項)	① 換地を取り巻く状況について	農林水産省農村振興局 土地改良企画課 調査係長 吉田 行英
	② 換地関係異議紛争事例検討	水土里ネットみえ 農地集積課 課長補佐 前田 靖彦
	・三重県土連：未登記の個人所有の溝敷について、 時効取得制度を活用して訴訟提起し、所有権保存登記に 至った事例	水土里ネットみえ 農地集積課 課長補佐 前田 靖彦
	・福井県土連：事業不同意者による役員に対する不満を 理由とした異議申立てについて	水土里ネットふくい 土地改良課 係長 清水 章文
③ 中央換地センター報告		全国水土里ネット 中央換地センター 所長 浦山 正四
財産管理制度活用実態調査のプレ調査結果 他		

Ⅱ 土地改良区体制強化事業技術実践向上研修会 開催 Ⅱ

平成28年度土地改良区体制強化事業技術実践向上研修会を平成28年11月14日から16日までの3日間、本会が主催で開催し、延べ98名が参加した。

本研修は、農業農村整備事業の円滑な実施を図るため、市町村職員及び水土里ネットの役職員の技術力向上を図るべく、土地改良区体制強化事業の一環として実施している。



青木専務理事による開講挨拶

開講にあたり、青木章雄専務理事が挨拶を述べ、続いて来賓として臨席いただいた平野隆久愛知県農地整備課長より挨拶を頂き、研修に入った。

講師は、東海農政局、愛知県から、下記カリキュラムにあるように当該事業を直接担当されている方々をお招きし、それぞれの内容で具体的に指導いただき有意義な研修となった。



県営防災ダム事業 北崎大池地区（大府市）における現地研修

（カリキュラム）

月日	研修科目	講 師（敬称略）
11月14日	農業農村整備を取り巻く最新の動向と施策	東海農政局 農村振興部 設計課 農業土木専門官 初川 栄治
	会計実施検査の動向等について	東海農政局 農村振興部 設計課 工事検査官 天野 章
11月15日	我が国の食料・農業・農村をめぐる課題と施策について	東海農政局 企画調整室 企画官(総括) 谷本 忠義
	災害復旧事業の概要・災害の調査及び復旧工法	東海農政局 農村振興部 防災課 災害査定官 鳥本 孝市
	熊本地震等に係る人的支援	東海農政局 農村振興部 設計課 課長補佐(調整) 春日井 克明
	災害応急ポンプ及び機能診断機器の貸出	東海農政局 土地改良技術事務所 施設・管理課長 芝原 明利
	愛知県における東日本大震災に対する支援について	愛知県農林水産部農林基盤局 農地整備課 主査 橋村 富雄 // 技師 余語 瑞紀
11月16日	県営防災ダム事業 北崎大池地区(大府市)	愛知県知多農林水産事務所 建設課主任主査 牧 正人
	国営かんがい排水事業 尾張西部地区 日光川河口排水機場(飛島村)	東海農政局 木曽川水系土地改良 調査管理事務所 保全整備課長 柚木 勝利 愛知県海部農林水産事務所 排水対策課 課長補佐 藤井 達詞

■ 水土里ネット事業視察研修会 開催

9月29日～30日にかけて、農業農村整備事業の推進を図るため、事業視察研修会を開催した。

29日には大阪府和泉市において、光明池土地改良区の研修、30日には奈良県橿原市において、近畿農政局大和紀伊平野農業水利事務所と大和平野土地改良区の合同研修、その後、奈良県生駒郡三郷町において、農業公園信貴山のどか村での事業視察研修会を開催した。

研修会には、48名が参加し、1日目の視察場所では、若林主治光明池土地改良区理事長、三井孝彦参与、小門正事務局長より、土地改良区の概要、運営及び光明池の管理についての説明を受けた。

2日目には、宮崎且近畿農政局大和紀伊平野農業水利事務所長、鶴沢和弘調査設計課長より国営大和紀伊平野土地改良事業の概要について、新井宏巳大和平野土地改良区事務局長、薮本啓介事業課係長より大和平野土地改良区の運営及び維持管理体制についての説明を受けた。



近畿農政局水利事務所・大和平野土地改良区



光明池土地改良区

次の視察先の農業公園信貴山のどか村では、奥田哲生代表取締役より6次産業化の取組の先駆けの説明を受けた。

参加された方々は、それぞれの立場から熱心に視察され、地域での農業農村整備事業の推進の参考にしていただいた。

研修会終了後のアンケートには、多くの方から「大変有意義な研修会であった」という意見をいただき、大変充実した研修会であった。



農業公園信貴山のどか村

■ 水土里情報システム応用操作研修会 開催

水土里情報システムは、昨年より大幅な見直しを行い新たなシステムとして運用を開始しており、更に、ご意見ご要望によるシステム改良が10月に完了した事により、11月21日～25日に応用操作研修会を開催した。

今回は、①システム改良内容、②台帳データの取り込み方法、③施設の更新管理方法についての説明を行った。(参加団体:32団体 参加者:86名)

【研修内容】

① システム改良内容

検索条件に「OR」を追加、メモレイヤが新規作成可能、別レイヤからコピー可能、色分けの条件フィルタを追加、印刷ツールにより分割印刷、図郭印刷が可能に成了った事を説明した。

② 台帳データの取り込み活用について

活用データを投入する為に、ユーザーレイヤを作成

し、そこから出力したCSVデータに活用データを書き込む作業を、ツールによる簡単な操作ができる実習をした。

③ 施設の更新・管理に活用

施設のレイヤを紹介し、補修履歴レイヤを使って関連ファイルの登録操作の実習をした。

今後も、本システムを使って皆様の業務の効率化が図られるような実務的な内容について研修会を進めてまいります。



■ 複式簿記促進研修会 開催

10月4日、愛知県土地改良会館7階大会議室において、愛知県、愛知・三重管内水土里ネット職員等82名の参加を得て、複式簿記促進研修会を開催した。

研修会は、土地改良区における会計処理の複式簿記導入を促進するため開催したもので、全国水土里ネット、東海農政局より講師を招いた。また、複式簿記を実

施、運用している群馬県 長野堰土地改良区より事例紹介として説明を受けた。

参加者は熱心に講義を受け、説明後の質疑応答も活発に行われた。

カリキュラムは下記のとおり。

【カリキュラム】

研修内容	講師（敬称略）
会計制度、複式簿記の基本について	全国水土里ネット 中央換地センター 所長 浦山正四
会計指導基準、会計基準について	東海農政局 土地改良管理課 団体指導・資金係長 浦井信雄
会計記帳実務 資産評価、減価償却	全国水土里ネット 経理部 主任 金内琴美
複式簿記方式への移行に関する説明(実施地区における事例紹介)	群馬県 長野堰土地改良区 係長 松澤伸一
決算書変換ソフトの活用、分析視点について	全国水土里ネット 中央換地センター 所長 浦山正四



複式簿記促進研修会



説明を行う浦山所長

■ 小水力等発電導入技術力向上地方研修事業研修会 開催

10月17日、農林水産省の補助事業として、農業水利施設を活用した小水力等発電導入に係る県、市町村、水土里ネット等の担当職員29名の参加を得て、技術力向上のための研修会を、愛知県西三河農林水産事務所、羽布ダム管理所、並びに愛知県豊田加茂農林水産事務所のご協力により開催した。

研修内容は、羽布ダム管理所（豊田市羽布町）において、鈴木孝一羽布ダム管理所長から羽布ダムの概要について、久野容一西三河農林水産事務所建設課長から10月10日に起動式が行われた羽布ダム小水力発電施設について説明を受けた後、羽布ダム内を現地施設まで移動し、小水力発電施設の概略や設置状況について説明を受けた。

その後、稻橋地区小水力発電施設（豊田市稻武町）に移動し、現地において保坂貢豊田加茂農林水産事務所建設課長補佐、並びに同課の田中徳志主査より、概略や設置状況について説明を受けた。



鈴木管理所長、久野建設課長による羽布ダム施設概要説明



羽布ダム（小水力発電）での現地研修



稻橋地区（小水力発電）での現地研修

■ 農業用排水機県営移管期成同盟会研修会 開催

9月20日～21日にかけて、石川県にある手取川七ヶ用水土地改良区(白山市)・七ヶ用水発電所(能美郡川北町)、河北潟太陽光発電所(河北郡内灘町)、大場排水機場(金沢市)の視察研修会を開催した。

研修会には同盟会役員・会員等54名が参加、研修1日目の手取川七ヶ用水土地改良区・七ヶ用水発電所では、同改良区の中川晃総務課長による改良区概要説明の後、あいにくの天候ではあったが、七ヶ用水発電所の見学も行った。

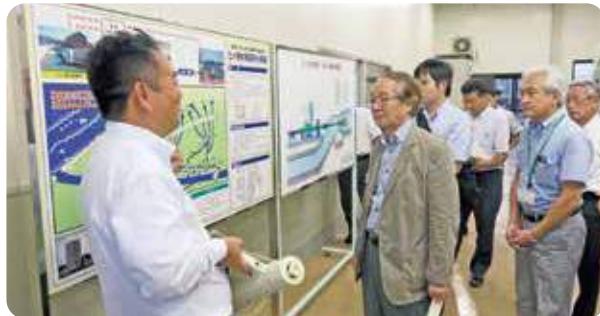
また、2日目は、河北潟太陽光発電所にて、鈴木時秀河北潟干拓土地改良区事務局長より、太陽光発電所「メガソーラーひまわり」の活用状況等の説明を受け、続いての視察先である大場排水機場では、長原克信河

北潟沿岸土地改良区事務局長より、排水機場遠隔監視システムについての説明を受けた。

参加された方々は、2日間にわたりそれぞれの立場から熱心に視察され、地域における今後の農業用排水機の維持管理等の参考となる有意義な研修となった。



河北潟干拓土地改良区 太陽光発電の説明



手取川七ヶ用水土地改良区 七ヶ用水発電所においての説明



河北潟沿岸土地改良区 大場排水機場の説明

■ 適正化事業加入団体現地研修会 開催

12月2日、三重県鈴鹿市の深溝土地改良区が管理する幹線水路除塵機、多気郡明和町の宮川用水土地改良区の斎宮調整池において開催した。

この研修会は、土地改良施設の適切な維持管理と適正化事業の円滑な推進を図ることを目的に毎年実施しているもので、参加者は、市町村・水土里ネットの役職員45名であった。



幹線水路除塵機

■ 排水機管理担当者現地視察研修会 開催

12月7日、岐阜県海津市海津町の高須輪中土地改良区が管理する「大江排水機場」、岐阜県羽島市正木町の羽島用水土地改良区が管理する「正木排水機場」において開催した。

この研修会は、排水機管理担当者の管理技術の向上及び管理意識の高揚を図るために開催したもので、参加者は市町村・水土里ネット等の役職員や運転管理者47名であった。



大江排水機場

第15回 あいちの農業・農村フォトコンテスト

～大賞・優秀賞・入選作品決定～

本会主催、愛知県後援の「第15回あいちの農業・農村フォトコンテスト」の審査会を12月22日、愛知県土地改良会館7階大会議室で開催した。県内各地から、今回のテーマ「土地改良施設と歩む農業・農村」を表現した作品273点(137名)の応募があった。審査は、審査会規程第2条により実施され、8名の審査員による厳正な審査の結果、水土里のフォト大賞1点、優秀賞2点、豊かな農地あいち特別賞1点、多面的機能共同活動特別賞3点、入選10点の計17点が選考された。

なお、入賞・入選作品の展示を下記により実施しますのでお立ち寄りください。



審査会

★水土里のフォト大賞「朝陽に輝らされて」(犬山市)

撮影者:井戸田 千恵子氏の作品は、表紙に掲載してあります。



「イモ とれたよー」(安城市)

撮影者:小川環境保全向上委員会



「家族」(碧南市)

撮影者:犬塚 猛

【展示場所および期間】

展示場所	展示期間(予定)
県庁本庁舎・西庁舎の地下連絡通路	平成29年1月30日(月)PM～平成29年2月10日(金)AM
西三河県民相談室(西三河総合庁舎1階)	平成29年2月13日(月)PM～平成29年2月24日(金)PM
東三河県民相談室(東三河総合庁舎1階)	平成29年2月28日(火)AM～平成29年3月10日(金)PM
海部県民相談室(海部総合庁舎1階)	平成29年3月14日(火)AM～平成29年3月24日(金)AM
愛知県県民相談・情報センター(自治センター1階)	平成29年3月28日(火)AM～平成29年4月10日(月)AM

お知らせ

◎農業基盤整備資金の金利のご案内

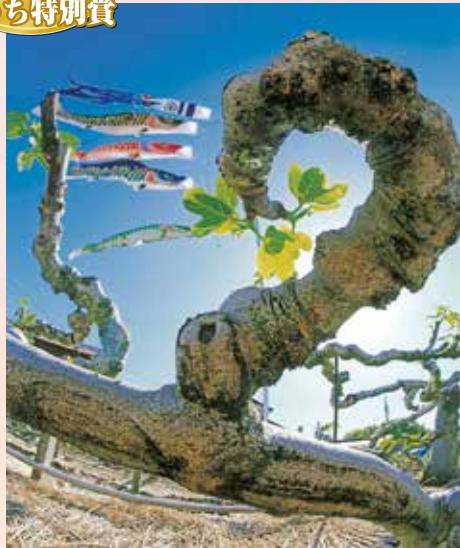
平成28年12月19日現在の日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の貸付金利は次のとおりです。
金利は金融情勢により変動します。
最新の金利は名古屋支店農林水産業農業食品第二課(TEL052-582-0745)にお問い合わせください。

区分	利率一覧(平成28年12月19日現在)				
	借入期間に かかわらず	融資期間別(一例)			
		5年	10年	15年	20年
県営補助残	0.45%	—	—	—	—
団体営補助残	0.30%	—	—	—	—
非補助	0.30%	—	—	—	—
災害復旧	—	0.16%	0.16%	0.21%	0.30%

◎研修会のご案内

研修会名	開催日	対象者	研修場所
水土里ネット役職員研修会	1月18日	水土里ネット役職員	愛知県土地改良会館7階大会議室

豊かな農地
あいち特別賞



「芽吹き」(碧南市)
撮影者・大塚 勝正

多面的機能共同活動
特別賞



「協力」(安城市)
撮影者・浅岡 由次

多面的機能共同活動
特別賞



「田んぼの宝」(名古屋市)
撮影者・土本 米子

多面的機能共同活動
特別賞



「捕れたぞ！」(あま市)
撮影者・菱田 育夫

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016

～入賞・入選作品決定 本県応募作品のうち2作品が入賞、23作品が入選～

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016に、全国から7,879点、本県からは1,222点（うち団体応募5団体で1,105点）の応募があった。

この絵画展は、子どもたちに田んぼや農村に関心をもってもらい、田んぼ、水路やため池による水の循環や環境保全への理解をうながし、大人たちへのメッセージとして子どもたちのまなざしを届けることを目的として平成12年度から全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催している。有識者による厳正な審査の結果、入賞作品23点、入選作品164点、団体賞作品42点が

決定した。本県からは、入賞2点、入選23点、及び団体賞7点が選ばれた。

なお、団体賞は、水土里ネット愛知用水、水土里ネット明治用水、水土里ネット豊田、水土里ネット豊川総合用水、茶屋新田地域資源保全隊が団体応募に参画し、愛知用水土地改良区理事長賞1点、水土里ネット明治用水理事長賞1点、水土里ネット豊田理事長賞等3点、水土里ネット豊川総合用水理事長賞1点、茶屋新田地域資源保全隊賞1点を選考していただいた。

文部科学大臣賞



「海の見えるみかん畠」
柳原悠斗 小6

ヤンマー賞



「家族そうでおいしいお米作り」
良知愛斗 小6

入選



「はたけのはくさい」
布目依楓 2歳

入選



「どうもろこしおいしいなー」
竹内乃彩 4歳

入選



「川でホタルを見たよ」
杉田煌季 5歳

入選



「にんじん畠」
佐藤優衣 小1

入選



「おたまじゃくし つかまえるぞ！」
櫛井璃音 小1

入選



「きょうぶのはながきれいあめのたんぼ」
浦塚はなみ 小1

入選



「いろいろないきものがいる田んぼ」
土井桜子 小2

入選



「田んぼの中かられんこん」
角田大空 小3

明治用水が「世界かんがい施設遺産」に登録

11月8日、タイのチェンマイ市で開催されたICID(国際かんがい排水委員会)国際執行理事会において、明治用水(安城市、岡崎市、豊田市、知立市、刈谷市、高浜市、碧南市、西尾市)が世界かんがい施設遺産に登録された。

明治用水は、都筑弥厚翁を始めとする先人たちの絶え間ない努力により、荒れ野原であった碧海大地に矢作川の水を疏水し、この地域が「日本デンマーク」と呼ばれるような先進的農業地域へと変貌を遂げた。

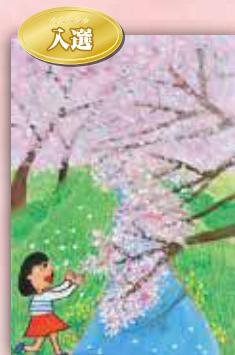
また、明治用水は、2006年(平成18年)に、日本の農業を支えてきた代表的な用水として、農林水産省の「疏水百選」にも選定されている。



「じいちゃんとばあちゃんの畠」
太田直斗 小3



「おじさんちの畠」
近藤千夏 小3



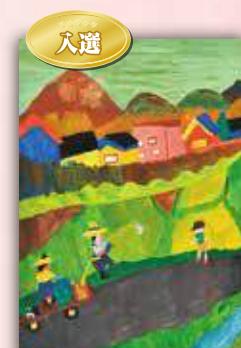
「桜まん開!! 明治用水」
篠山結衣 小4



「ていねいにつみ取られる野菜」
中村かのん 小4



「米作り」
高井心愛 小4



「消毒をする人」
樹神市朗 小4



「おいしいミルクいっぱいだしてネ」
内藤千歳 小4



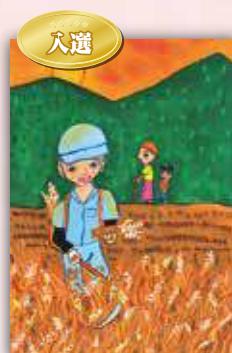
「お米が私達の手もとにとどくまで」
河津美咲 小5



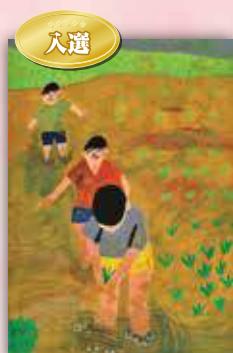
「水車と田んぼ」
山下蒼依 小5



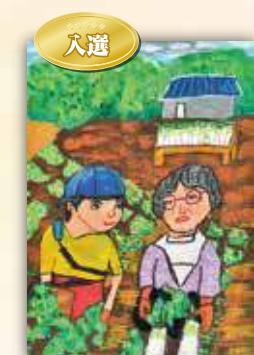
「うちの近所のふうけい」
大音勇瑠 小5



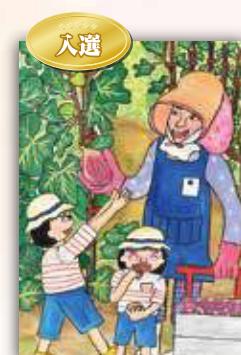
「おいしそうなお米になつたね」
遠藤未来 小5



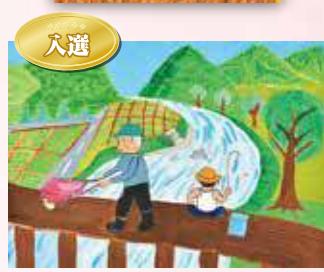
「いつのまにかどろみみれ」
大木克則 小5



「おばあちゃんと育てた大根」
山口敦也 小5

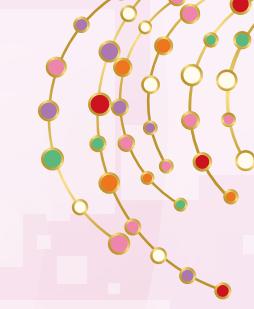


「日本一」のいちじくちょうだい
篠山真衣 小6



「ふるさと、緑がいっぱい!」
三宅愛莉 小6

※団体応募は、すべての水土里ネットが参画できますので平成29年度に向けてご検討いただければ幸いです。詳細は、総務部総務課まで問い合わせください。



迎春

本年もよろしくお願ひいたします
平成二十九年 元旦

会長	中野治	美海部土地改良区理事長
副会長	小久保三章	豊川総合用水土地改良区理事長
専務理事	青木雄	学識経験者
理事	瀬木保	北名古屋市長
	長佐幸	海東土地改良区理事長
	佐藤正宣	一宮市長
	中恒幸	平和土地改良区理事長
	恒藤彦	孫宝排水土地改良区理事長
	佐川宣	常滑土地改良区理事長
	中川一勝	明治用水土地改良区理事長
	恒田城	幸田土地改良区理事長
	佐藤徳	矢作川南部土地改良区理事長
	佐野衛	西尾市長
	佐野雄	豊田土地改良区理事長
	佐口萬	みよし土地改良区理事長
	佐山康	愛知用水土地改良区理事長
	佐口一郎	設楽町長
	山川孝	油ヶ瀬悪水土地改良区理事長
代表監事	川口正司	田原市土地改良区理事長
監事	横山健	
	早伊藤三伸	

事務部長	坂長	施設管理課長	三博浩
業務部長	藤野	藤山	豊仁彦
事業部長	下美	山田	相名
事業部次長(兼)計画課長	佐宇	原相	内島
技術監(嘱託)	加竹	笠	鹿島
指導監(嘱託)	宇佐	桑池	和啓哲
事業部次長(兼)調査課長	利樋	小異	正芳
専門監(嘱託)	鈴村	沓坪	
整備課長	鈴木	戸	
整備課室長	服部	豊橋	
推進監(嘱託)	平井	野井	

ほか職員一同